

国内のCOVID-19は、2022年に入ると第6波と称される大きな流行となりましたが、こぶのある緩斜面をスキーでゆっくりと滑り降りるようにして次第に減少し、現在（2022年6月初旬）に至っています。そして、オミクロン株への置き換わり、ワクチン接種者の増加、医療の進展、人々の感染対策の継続などから、第5波までとはだいぶ様相が異なってきました。欧米諸国はCOVID-19の存在を認めながら種々の規制緩和・社会経済活動の復帰に舵を切りつつあり、国内でも予断を許さないながらも、やはり規制緩和・社会経済活動の再開が考えられています。そのような中、小児のCOVID-19をどうみるかとは大人と異なった視点が必要ですが、6月1日に開催された厚生労働省アドバイザリーボードにおいて「発育途上にある小児に対して、過剰な警戒を強いることなく、一方では小児における感染の拡大を避け、感染した場合でも早期発見し、早期に医療に結び付け重症化をできるだけ防ぎ、保護者を含め日常生活をできるだけ保つようにすることは時に困難を伴うが、小児の健やかな発育発達のためにわれわれ大人が努力すべきことである」と小児科医グループが意見を述べています。

さて、本号は「小児の腎疾患を見つめ直す——基礎と臨床」として特集を組み、遺伝子解析・AI診断・レジストリー・学校検尿・発症メカニズム・免

疫・治療・透析・移植など、文字通り基礎から臨床まで幅広く、最近の進歩や診療の上で必須なことなどについてご寄稿いただきました。診断技術や治療法の進歩にもかかわらず国内の透析患者数は増加していますが、一方では学校検尿の導入とともに慢性糸球体腎炎による透析導入患者数は減少していることなどは、小児科医の地道な活動が大きく貢献している表れかと思います。

特集以外には、綜説「慢性閉塞性肺疾患（COPD）に至る胎児期・小児期の肺機能の低成長」、診療「富山県における小児COVID-19の臨床症状」「小児糖尿病診療における持続グルコースモニタリング」のほか、「脚の異常の『オノマトベ』」に着目した臨床経験のまとめと考察、「豆乳によるアナフィラキシーショック」「薬剤誘発性SLE」の症例報告、目で見ると小児科では「体重減少で発症したBasedow病男児の治療後の体重変化」など、小児医療の知識として興味深いテーマの論文を掲載することができました。また日本医科大学小児科学教室からは、免疫分野に関する外国論文の紹介をいただいています。

COVID-19がちょっとひと息ついているかのような今日この頃ですが、外の青葉とともに本誌6月号もどうぞご覧ください。

（岡部 信彦）

編集：伊藤保彦・中西敏雄・岡部信彦・清水直樹・高橋孝雄（ABC順）

小児科

第63巻 第6号 6月号

2022年6月1日発行（毎月1回1日発行）

定価3,080円（本体2,800円＋税10%）

年間購読料金

定価47,630円（本体43,300円＋税10%）

〔年間13冊（増刊号、増大号を含む）の誌代〕

〔年間予約購読者に限り送料無料〕

※別冊は年間購読に含まれません※

発行所 金原出版株式会社

発行者 福村 直樹

〒113-0034 東京都文京区湯島2-31-14

Tel 03(3811)7165〔雑誌部直通〕

Tel 03(3811)7184〔営業部直通〕

Fax 03(3813)0288

www.kanehara-shuppan.co.jp

振替口座 00130-1-191269

印刷所 三報社印刷株式会社 Tel 03(3637)0005

広告申込先 福田商店 Tel 06(6941)5600

・本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権（送信可能化権を含む）、貸与権、二次的著作物への利用に関する原著作者の権利は、金原出版株式会社が保有します。

・**JCOPY**＜出版者著作権管理機構 委託出版物＞

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構（TEL：03-5244-5088、FAX：03-5244-5089、E-mail：info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。